

歯科医院への定期受診の関連要因  
～ Web 調査による分析～

研究代表者：安藤雄一（国立保健医療科学院・口腔保健部）  
研究協力者：石田智洋（東京医科歯科大学 教育システム評価学分野）  
研究分担者：深井穂博（深井保健科学研究所）  
研究協力者：大山 篤（東京医科歯科大学歯学部附属病院歯科総合診療部）

**研究要旨**

今後の歯科需要について(株)マクロミル社のモニタに対して定期受診者と非定期受診者に対して Web 調査（本調査）を実施するための予備調査としてモニタ 3 万人（20～60 歳代の男女）に対して定期歯科受診、最後の歯科受診時期と受けた診療内容について事前調査として Web 調査を行った。

定期受診者の割合は対象全体で 35.7%、過去 1 年間における歯科受診ありの割合は対象全体で 50.3%であり、ともに女性と高齢層の割合が高かった。

定期受診の有無についてロジスティック回帰分析を行ったところ、性・年齢階級のほか、最後に受けた診療内容、職業、都道府県が有意であり、とくに職業差については若い年齢層ほど顕著であった。

**A. 目的**

歯科の将来需要の予測を行う場合、過去のデータを利用する方法は研究の定石として必要な手段であるが、その場合、現状がそのまま将来に推移すること暗黙の前提として存在しており、制約された条件下で行われると予測に過ぎない点に留意する必要がある。

これを克服するためには、需要に関して仮想的な状況を設定した質問紙調査が有効であり、本研究班では歯科医院への定期受診と職場・市町村等で行われる歯科健診の 2 つについて、(株)マクロミル社<sup>1)</sup>のモニタを対象とした Web 調査による検討を行っている<sup>2,3)</sup>。このうち定期受診に関する Web 調査<sup>2)</sup>では、すでに歯科医院に定期受診している群と歯科医院に受診しているが非定期的である群を予め選び出して両群を比較するという手法を用いたが、これを行うには(株)マクロミル社のモニタに対して事前調査を実施して、定期受診者の割合などを確認したうえで、本調査を実施する必要がある。Web 調査では、調査会社のモニタが有する性・年齢・地域・職業等の基本属性からクライアントの希望するサンプルを選定するが、モニタの基本属性ではクライアントの要求に対応できない場合はモニタに対して事前調査を実施し、本調査は事前調査で該当したモニタを抽出して行う。

今回、定期受診に関する Web 調査を行うに際して、モニタ 3 万人に対する事前調査を実施した。事前調査であるため、質問数は定期受診に関する質問を含めて計 3 問と、簡素な調査であるが、我が国には定期受診に関する全国統計がないこと、また性・年齢の他に職業と居住都道府県の情報が利用でき、これ自体が歯科の定期受診に関する重要なデータになりうると考えられた。

そこで、本報告では定期受診に関する Web 調査の事前調査で得られた分析結果について報告する。

## B. 方法

### 1. 調査の流れとデータセット

本調査と位置づけた定期受診に関する Web 調査では、サンプルサイズを 20～60 歳代の男女の計 10 層について定期受診者と非定期受診者を 100 名ずつと設定し（計 2,000 名）、定期受診者と非定期受診者を振り分けるための事前調査を行った。この事前調査では、20～60 歳代の男女計 3 万人分のデータが集まるように、それぞれの性・年齢階級に見当をつけてアンケート回答依頼メールを 9 万人のモニタ宛てに配信し、3 万人から回答を得た。調査実施期間は、2011 年 2 月 22 日（火）～24 日（木）である。

表 1 は調査実施日に最も近い時点でのモニタ数<sup>1)</sup>と事前調査における調査依頼メールの配信数・回収数・回収率を性・年齢階級別に示したものである。

表 1. モニタ数と事前調査における調査依頼メールの配信数・回収数・回収率

	全モニタ数 (2011/3/1現在、未成年除外) 【注】60歳代は60歳以上			事前調査における 調査依頼メール の配信数(A)			事前調査の回収数(B)			回収率 =B÷A(%)		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
20歳代	102,442	156,030	258,472	18,000	17,000	35,000	2,886	3,427	6,313	16.0%	20.2%	18.0%
30歳代	142,674	234,037	376,711	12,000	8,000	20,000	3,250	2,657	5,907	27.1%	33.2%	29.5%
40歳代	101,508	117,028	218,536	6,000	6,000	12,000	3,183	2,726	5,909	53.1%	45.4%	49.2%
50歳代	47,029	38,283	85,312	6,000	6,000	12,000	2,631	2,933	5,564	43.9%	48.9%	46.4%
60歳代	24,386	38,903	63,289	5,500	5,500	11,000	3,070	3,237	6,307	55.8%	58.9%	57.3%
計	418,039	584,281	1,002,320	47,500	42,500	90,000	15,020	14,980	30,000	31.6%	35.2%	33.3%

なお、事前調査が終了した日から翌日にかけて（2月24日（木）～25日（金））、回答が得られた 3 万人の対象者のうち歯科医院に定期受診していると回答した対象者 1,420 名と、歯科医院を受診しているが定期的ではないと回答した 1,405 名をそれぞれ無作為抽出して本調査の調査依頼メールを送付し、それぞれ 1,030 名、計 2,060 名より回答を得ている。

### 2. 分析項目

事前調査の質問項目は、以下の通りである。

Q1：あなたは現在歯科医院で定期受診していますか。している方はおおよその受診の頻度を教えてください。

1 ヶ月に 1 回以上 / 2～3 ヶ月に 1 回程度 / 半年に 1 回程度 / 1 年に 1 回

程度／2年に1回程度／3年に1回程度／それ以下／過去定期受診していたが現在はしていない／定期受診したことはない

Q2：最後に歯科医院で歯の治療を受けたのはいつ頃ですか。

1ヶ月以内／3ヶ月以内／半年以内／1年以内／2年以内／3年以内／5年以内／5年より前／歯科医院で歯の治療は受けたことがない

Q3：歯科医院で最後に受けた歯の治療は何ですか（複数回答）

むし歯の治療（詰めもの・冠をかぶせる）／歯の根管治療（歯の神経の治療）  
 ／歯周疾患の治療（歯肉炎・歯周病）／抜けた歯の治療（入れ歯・ブリッジ）  
 ／歯ならびやかみあわせの治療／その他の治療

対象者の属性として、分析に利用できた項目は、性、年齢、居住する都道府県、職業であった。

### 3. 分析方法

まずQ1～Q3の基礎統計量を算出した。

次いで、Q1について、定期受診を「している」と回答し、かつ頻度が「1年1回以上」である場合を「定期受診者」と定義し、クロス集計およびロジスティック回帰分析を行った。

## C. 結果

### 1. 基礎統計量

表2に定期受診に関する質問の回答状況を示す。「定期受診あり」は、男全体で31.5%、女全体で39.9%、男女合計で35.7%であり、女性が高い割合を示し、各年齢層で一貫していた。また年齢が高いほど高値を示した。「定期受診あり」の内訳をみると、割合の高い順に「半年に1回程度」（36%）、「1年に1回程度」（31%）、「2～3ヵ月に1回程度」（22%）、「1ヵ月に1回以上」（11%）であった。

表2. 定期受診に関する質問の回答状況

質問(Q1)＝あなたは現在歯科医院で定期受診していますか。している方はおおよその受診の頻度を教えてください。

年齢階級	男									計	(再掲) 11年1回以上 定期受診あり	女									計	(再掲) 11年1回以上 定期受診あり
	1 1ヵ月に1回以上	2 2ヵ月に1回程度	3 3ヵ月に1回程度	4 半年に1回程度	5 1年に1回程度	6 2年に1回程度	7 3年に1回程度	8 それ以下	9 過去定期受診していたが現在はしていない			1 1ヵ月に1回以上	2 2ヵ月に1回程度	3 3ヵ月に1回程度	4 半年に1回程度	5 1年に1回程度	6 2年に1回程度	7 3年に1回程度	8 それ以下	9 過去定期受診していたが現在はしていない		
20歳代	111	146	230	243	87	46	191	524	1,307	2,885	730	99	225	421	362	107	45	152	644	1,372	3,427	1,107
30歳代	85	188	318	354	118	71	223	501	1,392	3,250	945	61	204	414	351	108	50	119	432	918	2,657	1,030
40歳代	87	167	317	347	103	91	219	458	1,395	3,184	918	83	201	376	360	133	41	156	426	949	2,725	1,020
50歳代	104	163	280	327	110	52	135	375	1,085	2,631	874	111	289	458	354	98	50	117	425	1,032	2,934	1,212
60歳代	185	315	454	313	94	60	96	460	1,093	3,070	1,267	220	433	607	355	86	33	77	457	969	3,237	1,615
計	572	979	1599	1584	512	320	864	2318	6,272	15,020	4,734	574	1352	2276	1782	532	219	621	2384	5240	14,980	5,984
割合	3.8%	5.1%	8.0%	8.4%	3.0%	1.6%	6.6%	18.2%	45.3%	100.0%	25.3%	2.9%	6.6%	12.3%	10.6%	3.1%	1.3%	4.4%	18.8%	40.0%	100.0%	32.3%
20歳代	2.6%	5.8%	9.8%	10.9%	3.6%	2.2%	6.9%	15.4%	42.8%	100.0%	29.1%	2.3%	7.7%	15.6%	13.2%	4.1%	1.9%	4.5%	16.3%	34.6%	100.0%	38.8%
30歳代	2.7%	5.2%	10.0%	10.9%	3.2%	2.9%	6.9%	14.4%	43.8%	100.0%	28.8%	3.0%	7.4%	13.8%	13.2%	4.9%	1.5%	5.7%	15.6%	34.8%	100.0%	37.4%
40歳代	4.0%	6.2%	10.6%	12.4%	4.2%	2.0%	5.1%	14.3%	41.2%	100.0%	33.2%	3.8%	9.9%	15.6%	12.1%	3.3%	1.7%	4.0%	14.5%	35.2%	100.0%	41.3%
50歳代	6.0%	10.3%	14.8%	10.2%	3.1%	2.0%	3.1%	15.0%	35.6%	100.0%	41.3%	6.8%	13.4%	18.8%	11.0%	2.7%	1.0%	2.4%	14.1%	29.9%	100.0%	49.9%
計	3.8%	6.5%	10.6%	10.5%	3.4%	2.1%	5.8%	15.4%	41.8%	100.0%	31.5%	3.8%	9.0%	15.2%	11.9%	3.6%	1.5%	4.1%	15.9%	35.0%	100.0%	39.9%

表3に最後の歯科受診に関する質問の回答状況を示す。「過去1年以内の歯科受診あり」男全体で45.9%、女全体で54.7%、男女合計で50.3%であり、女性が高い割合を示した。年齢が高いほど高値を示したが、その傾向は男のほうが顕著で、男女差は年齢が高いほど小さかった。

表3. 最後の歯科受診に関する質問の回答状況

質問(Q2)=最後に歯科医院で歯の治療を受けたのはいつ頃ですか

年齢階級	男										女										計	(再掲) 1年以内																																																																																																															
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9																																																																																																																			
	1ヶ月以内	3ヶ月以内(1は除外)	半年以内(1,2は除外)	1年以内(1,2,3,4は除外)	2年以内(1,2,3,4,5は除外)	3年以内(1,2,3,4,5は除外)	5年以内(1,2,3,4,5,6は除外)	5年より前	受けたことがない	歯科医院で歯の治療は受けたことがない	1ヶ月以内	3ヶ月以内(1は除外)	半年以内(1,2,3は除外)	1年以内(1,2,3,4は除外)	2年以内(1,2,3,4,5は除外)	3年以内(1,2,3,4,5は除外)	5年以内(1,2,3,4,5,6は除外)	5年より前	受けたことがない	歯科医院で歯の治療は受けたことがない																																																																																																																	
人数	276	221	272	343	317	289	242	780	145	2,885	1,112	421	339	420	518	491	335	254	557	92	3,427	1,698	3,64	2,89	294	331	389	419	320	284	764	41	3,184	1,356	335	284	347	425	412	266	206	440	10	2,725	1,391	348	238	294	390	379	247	184	527	24	2,631	1,270	499	375	385	419	395	277	182	391	11	2,934	1,678	588	405	414	390	371	238	183	452	29	3,070	1,797	679	441	441	472	416	225	189	354	20	3,237	2,033	計	1944	1421	1605	1924	1937	1407	1193	3251	338	15,020	6,894	2,279	1,726	1,958	2,238	2,090	1,367	1,030	2,130	162	14,980	8,201																					
割合	9.6%	7.7%	9.4%	11.9%	11.0%	10.0%	8.4%	27.0%	5.0%	100.0%	38.5%	12.3%	9.9%	12.3%	15.1%	14.3%	9.8%	7.4%	16.3%	2.7%	100.0%	49.5%	11.2%	8.9%	9.0%	12.7%	13.9%	9.6%	9.2%	22.4%	3.0%	100.0%	41.8%	13.0%	10.8%	13.7%	15.2%	14.2%	9.9%	7.5%	14.6%	1.1%	100.0%	52.7%	11.6%	8.4%	10.4%	12.2%	13.2%	10.1%	8.9%	24.0%	1.3%	100.0%	42.6%	12.3%	10.4%	12.7%	15.6%	15.1%	9.8%	7.6%	16.1%	0.4%	100.0%	51.0%	13.2%	9.0%	11.2%	14.8%	14.4%	9.4%	7.0%	20.0%	0.9%	100.0%	48.3%	17.0%	12.8%	13.1%	14.3%	13.5%	9.4%	6.2%	13.3%	0.4%	100.0%	57.2%	19.2%	13.2%	13.5%	12.7%	12.1%	7.8%	6.0%	14.7%	0.9%	100.0%	58.5%	21.0%	13.6%	13.6%	14.6%	12.9%	7.0%	5.8%	10.9%	0.6%	100.0%	62.8%	計	12.9%	9.5%	10.7%	12.8%	12.9%	9.4%	7.9%	21.6%	2.3%	100.0%	45.9%	15.2%	11.5%	13.1%	14.9%	14.0%	9.1%	6.9%	14.2%	1.1%	100.0%	54.7%

「最後に受けた歯科治療」のなかで最も高い割合を示したのは「むし歯の治療」で歯科受診経験がある人(N=29,500)の66%を占めていた。次いで、「歯周疾患の治療」(14%)、「その他の治療」(12%)、抜けた歯の治療(12%)、歯の根管治療(10%)、「歯ならびやかみ合わせの治療」(5%)であった。「その他の治療」の自由回答欄をみると、歯石除去・クリーニング・健診の類や智歯関連の治療などが多かった。

図1は、これらの割合の性差を年齢階級別に示したものである。性差が比較的顕著だったのは、「むし歯の治療」、

「抜けた歯の治療」、「歯ならびやかみ合わせの治療」、「その他の治療」で、「むし歯の治療」(若い年齢層のみ)と「抜けた歯の治療」では男性の割合が高かったが、歯ならびやかみ合わせ

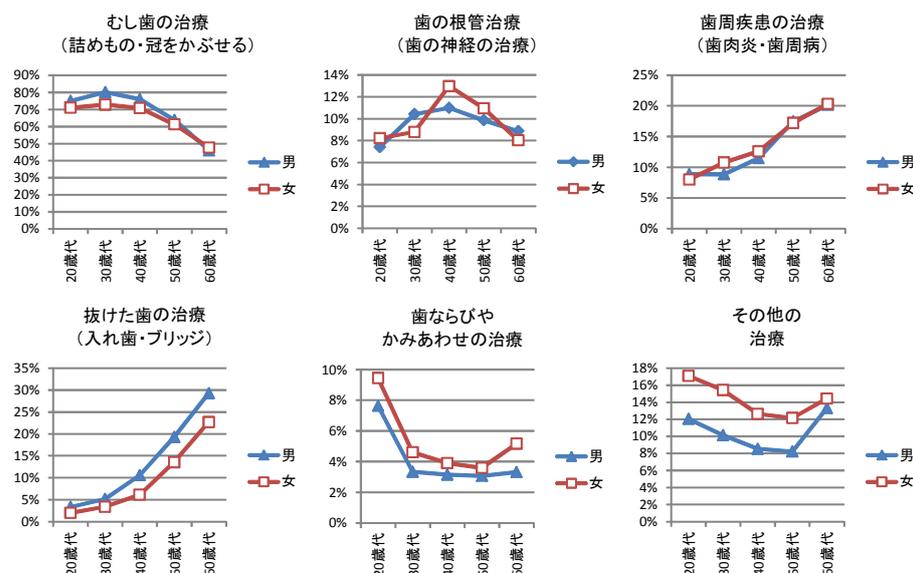


図1. 最後に受けた歯科治療の割合と性差(年齢階級層別)

質問(Q3)=歯科医院で最後に受けた歯の治療は何ですか(複数回答)

(分母はQ2で歯科受診経験がある人=「歯科医院で歯の治療は受けたことがない」と回答した以外の人)



男女で層別した分析では、概ね類似した結果が得られ、説明力 (Pseudo R<sup>2</sup>) も同様であったが、男性では都市部の都道府県で定期受診者が多い傾向が認められたが女性では認められなかった点が異なっていた。

#### D. 考察

今回の分析では(株)マクロミル社のモニタを対象としたWebによるアンケート調査で得られたデータを用いている。このモニタの属性は同社のウェブサイトの詳細が掲載されている<sup>4)</sup>。一般的にWeb調査会社のモニタは、インターネットとの親和性の低い高齢者層を除けば、代表性が他の調査手段に比べてとくに劣るものではないとされており<sup>5)</sup>、近年は医学領域でも利用が進みつつある<sup>6,7)</sup>。

これを踏まえて、今回用いたサンプルの特性を考察すると、基礎統計量として得られた数値を国の代表値と見なすことは

できないが、要因分析結果は比較的普遍性があるとみなして差し支えないと思われる。またサンプルサイズ (N=30,000) が大きいので、偶然変動による誤差が生じる確率は低いと考えられる。

今回の分析では、過去1年間における歯科受診があると回答した人の割合は50.3%であった。過去1年間の歯科受診の有無について調査された直近の全国統計は平成11年保健福祉動向調査(歯科保健)<sup>8)</sup>であり、20～60歳代全体で42.8%と報告され、本調査のほうが高い値を示している。患者調査では、最近の歯科診療所の推計患者数がほぼ一定で推移していること<sup>9)</sup>を踏まえると、本調査と平成11年保健駆使動向調査の値の差は、この10年強の間に増加したという解釈より、サンプル特性の差に由来するものと考えられるのが妥当かもしれない。よって、本調査で得られた20～60歳代全体で定期受診者の割合が35.7%という数値も国を代表する集団に比べると高めの数値と思われる。

診療内容に関する性差については、「むし歯の治療」と「抜けた歯の治療」では男性の割合が高く、「歯並びやかみ合わせの治療」と「その他の治療」では女性の割合が高かった

表4. 定期受診の有無を目的変数としたロジスティック回帰分析結果

【注】説明変数は有意性(p<0.05)が認められたもののみ記載

説明変数	男女計		男		女		
	オッズ比	p値	オッズ比	p値	オッズ比	p値	
年齢階級 (基準: 40歳代)	20歳代	0.83	0.000	0.98	0.730	0.75	0.000
	50歳代	1.15	0.001	1.14	0.024	1.14	0.017
	60歳代	1.59	0.000	1.70	0.000	1.52	0.000
性	女性	1.43	0.000				
仕事 (基準: 公務員)	自営業	0.72	0.000	0.74	0.002	0.65	0.013
	自由業	0.81	0.047	0.76	0.039	0.85	0.427
	専業主婦(主夫)	0.89	0.120	0.85	0.750	0.83	0.217
	パート・アルバイト	0.71	0.000	0.59	0.000	0.69	0.013
	学生	0.76	0.003	0.62	0.000	0.83	0.282
	その他 無職	0.74	0.000	0.76	0.004	0.64	0.006
都道府県 (基準:静 岡県)	北海道	0.82	0.052	1.16	0.318	0.59	0.000
	青森	0.73	0.076	1.01	0.971	0.52	0.010
	山形	1.40	0.062	1.90	0.008	1.01	0.971
	福島	0.70	0.035	0.87	0.547	0.56	0.015
	茨城	1.15	0.276	1.57	0.012	0.83	0.300
	埼玉	1.09	0.380	1.46	0.007	0.81	0.114
	千葉	1.08	0.446	1.27	0.083	0.89	0.418
	東京	1.20	0.043	1.51	0.001	0.94	0.614
	神奈川	1.17	0.084	1.44	0.006	0.94	0.660
	新潟	0.87	0.331	1.24	0.293	0.62	0.016
	富山	0.68	0.042	0.89	0.646	0.52	0.019
	愛知	1.30	0.005	1.57	0.001	1.07	0.627
	三重	1.13	0.372	2.02	0.000	0.63	0.018
	大阪	1.21	0.043	1.52	0.002	0.95	0.680
	兵庫	1.25	0.025	1.51	0.004	1.02	0.904
	岡山	1.31	0.046	1.60	0.016	1.07	0.725
	山口	0.86	0.375	1.31	0.248	0.58	0.020
	徳島	1.09	0.669	1.84	0.034	0.64	0.143
香川	0.99	0.967	1.61	0.050	0.57	0.041	
佐賀	1.62	0.031	1.70	0.121	1.47	0.201	
長崎	1.22	0.250	1.91	0.013	0.82	0.408	
大分	0.73	0.088	0.99	0.970	0.55	0.018	
鹿児島	1.28	0.155	1.72	0.025	0.96	0.862	
歯科医院 で最後に 受けた歯 の治療	むし歯の治療	0.74	0.000	0.73	0.000	0.74	0.000
	歯の根管治療	1.07	0.132	1.03	0.639	1.10	0.112
	歯周疾患の治療	2.52	0.000	2.67	0.000	2.39	0.000
	抜けた歯の治療	0.87	0.002	0.93	0.273	0.80	0.001
	歯ならびやかみあわせの治療	1.82	0.000	1.70	0.000	1.90	0.000
	その他の治療	1.80	0.000	1.84	0.000	1.77	0.000
N	29,500		14,682		14,818		
Pseudo R <sup>2</sup>	0.0613		0.0595		0.0558		

(図1)。このうち、「その他の治療」は歯石除去・クリーニング・定期健診などの記載が多かったことから、女性ではこの種の診療内容が多いことに由来する性差と考えられる。平成11年保健福祉動向調査では受診した際の主な疾患が調査されているが男女差はそれほど明瞭ではなかったこと<sup>10)</sup>を踏まえると、ここ10年くらいの間にとくに女性で定期受診すなわち予防管理主体の歯科診療が男性に比べて浸透しつつあることが示唆される。

定期受診に関するロジスティック回帰分析結果(表4)より、定期受診者の割合に性差(男<女)および年齢差(若齢<高齢)が確認された。性差については、もともと女性は健康志向の傾向があること、また歯科を受診する割合が高いことから近年一部の歯科医院において生じつつある予防管理型診療<sup>11,12)</sup>へのシフトの影響を受けやすいことなどによるものと考えられる。年齢差については、歯科疾患は年齢とともに不可逆的に進行するケースが多いため、歯科疾患の進行が定期受診の動機づけになっていることが考えられるが、今の若い世代は経済的に苦しい層が多いことも影響している可能性も考えられる。職業に関する分析結果も同様のことを示唆している。職業については、公務員に比べて自営業、パート・アルバイト・学生などで「定期受診者」が少ないことが示されたが、性・年齢階級で層別したクロス集計結果(図2)をみると男女とも若い年齢層における差が顕著であり、その背景として現代の若い年齢層の経済的な苦しさが影響しているのかもしれない。

都道府県については、全般的に男性において都市化が進んだ都道府県で定期受診者が多いことを示唆する結果が得られたが、女性では定期受診者の増加がある程度進み地域差が見えにくくなっているのに対して男性では都市地域を中心に進みつつある現状であることから、このような結果が得られた可能性も考えられる。これを確認するためには、この種の調査を定期的に実施していくことが必要と考えられる。

なお、結果には示さなかったが、「過去1年間の歯科受診」の有無を目的変数として同様のロジスティック回帰分析を行ったところ、定期受診の有無を目的変数とした分析結果(表4)と類似した結果が得られた。さらに「過去1年間の歯科受診」の有無と「定期受診の有無との関連をみたところ、76.7%(=45.3%+31.4%)が一致していた。

表5. 過去1年間ににおける歯科受診の有無と定期受診の有無との関連

		定期受診		
		なし	あり	計
過去1年間ににおける 歯科受診	なし	13,593 (45.3%)	1,312 (4.4%)	14,905 (49.7%)
	あり	5,689 (19.0%)	9,406 (31.4%)	15,095 (50.3%)
	計	19,282 (64.3%)	10,718 (35.7%)	30,000 (100.0%)

このことは、歯科受診に関する実態把握を目的とした調査などを行う場合、過去1年間ににおける歯科受診の有無を調査することにより、定期受診の実施状況を概ね知ることができると示唆している。定期受診の有無は質問紙調査などを行う場合、予め定期受診とは何ぞや、という定義を明確にしておかないと混乱を招きやすい面がある<sup>13)</sup>が、その点「過去1年間ににおける歯科受診の有無」は誤解が生じるリスクは少ないと考えられる。調査に余裕があれば、定期的歯科受診の有無と過去1年間ににおける歯科受診の有無は両方調査するのがよいと考えるが、余力がなければ、どちらか一方を選ばざるを得ない状況もあり得るので、そのような際には参考になるかもしれない。

## E. 結論

(株)マクロミル社のモニタ 3 万人 (20 ~ 60 歳代の男女) に対して定期歯科受診、最後の歯科受診時期と受けた診療内容について Web 調査を行った。

定期受診者の割合は対象全体で 35.7%、過去 1 年間における歯科受診ありの割合は対象全体で 50.3%であり、ともに女性と高齢層の割合が高かった。

定期受診の有無についてロジスティック回帰分析を行ったところ、性・年齢階級のほか、最後に受けた診療内容、職業、都道府県が有意であり、とくに職業については若い年清掃ほど差が顕著であった。

## F. 研究発表

### 1. 論文発表

なし

### 2. 学会発表

なし

## G. 知的財産権の出願・登録状況

なし

## H. 引用文献

- 1) マクロミル社ウェブサイト : <http://www.macromill.com/> ((株)マクロミル社ウェブサイト、2011年5月9日アクセス)
- 2) 石田智洋、安藤雄一、深井稔博、大山篤. インターネットリサーチによる歯科定期受診行動に関わる要因についての調査. 厚生労働科学研究費補助金地域医療基盤開発推進研究事業「歯科疾患等の需要予測および患者等の需要に基づく適正な歯科医師数に関する研究」(研究代表者: 安藤雄一) 平成 22 年度研究報告書 ; 2011. 195-213.
- 3) 安藤雄一、深井稔博、石田智洋、大山篤. 成人を対象とした歯科健診に対する住民のニーズと選好に関する Web 調査. 厚生労働科学研究費補助金地域医療基盤開発推進研究事業「歯科疾患等の需要予測および患者等の需要に基づく適正な歯科医師数に関する研究」(研究代表者: 安藤雄一) 平成 22 年度研究報告書 ; 2011. 215-232.
- 4) マクロミルネットリサーチモニタ総数 :  
[http://www.macromill.com/monitor\\_info/pdf/20110301web.pdf](http://www.macromill.com/monitor_info/pdf/20110301web.pdf) ((株)マクロミル社ウェブサイト、2011年5月9日アクセス)
- 5) 本多則恵. インターネット調査・モニター調査の特質 モニター型インターネット調査を活用するための課題. 日本労働研究雑誌 2006 ; 551 : 32-41.
- 6) 康永秀生, 井出博生, 今村知明, 大江和彦. インターネット・アンケートを利用した医学研究. 公衆衛生会誌 2006 ; 53(1) : 40-50.
- 7) 筒井昭仁、安藤雄一 : ウェブ調査 (Web-based survey) によるフッ化物応用に関する

- るリスク認知. 口腔衛生会誌 2010 ; 60(2) : 119-126.
- 8) 平成 11 年 保健福祉動向調査の概況 歯科保健 :  
[http://www1.mhlw.go.jp/toukei/h11hftyosa\\_8/index.html](http://www1.mhlw.go.jp/toukei/h11hftyosa_8/index.html) (厚生労働省ウェブサイト、  
2011 年 5 月 6 日検索)
  - 9) 安藤雄一、深井穫博. わが国における歯科患者の現状と推移 ～患者調査の公表値を用いた検討～. 厚生労働科学研究費補助金地域医療基盤開発推進研究事業「歯科疾患等の需要予測および患者等の需要に基づく適正な歯科医師数に関する研究」(研究代表者：安藤雄一) 平成 21 年度研究報告書 ; 2010. 49-58.
  - 10) 安藤雄一、深井穫博、相田潤、大山篤、恒石美登里. 歯科受診および治療中止・転医の要因 ～平成 11 年保健福祉動向調査と国民生活基礎調査のリンケージデータによる分析～. 厚生労働科学研究費補助金地域医療基盤開発推進研究事業「歯科疾患等の需要予測および患者等の需要に基づく適正な歯科医師数に関する研究」(研究代表者：安藤雄一) 平成 22 年度研究報告書 ; 2011. 55-69.
  - 11) NPO 法人ウェルビーイング編. 明日からできる診療室での予防歯科. 医歯薬出版、東京、1998.
  - 12) 康本征史編集. 康本征史、武智宗則、築山雄次、清水裕之、渡辺勝、竹歳さおり、阪口歩里、白石一則、濱田智恵子、小窪秀義著. 未来型歯科医院をつくろう コンセプト・デザイン・プロセス・人財. 医学情報社. 東京. 2010.
  - 13) 石田智洋. 定期健診. 歯界展望 2011 ; 117(6) : 1112-1113.

